

令和6年度 東京都立文京高等学校 学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導

- ① 学カスタンダードに基づく教科の到達目標を明確にし、教科主任会及び教科会の開催による教科内や教科間の連携を深め、授業内容や方法の工夫・改善、授業時数の確保や家庭学習の促進、指導と評価の改善、教材・授業内容・定期考査問題の共通化、ICT機器や生徒一人1台端末の活用やアクティブラーニングによる授業改善、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上に向けた取組など、確実な学力の向上を目指す学習指導を行った。
- ② 土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置など、生徒の理解度や目的に応じた指導を行い、進学に向けた学力向上を目指す学習指導を進めた。
- ③ 数値目標である、自主学習室平均利用人数（1日当たり）は60人（昨年度55人、一昨年度57人）と、全学年にわたり多くの生徒が利用するとともに、定期考査前には全教室を開放し自学自習を促すなど、主体的な学習の習慣が定着してきた。大学入学共通テスト得点率60%以上の人数は卒業生数の79.9%（昨年度66.2%）にあたる278人（昨年度217人）と昨年度を大きく上回った。長期休業中の講習講座延べ日数は320日（昨年度280日）と、昨年度を大きく上回り、今年も多くの講座数を開講した。全学年全クラスで始業前の朝学習を実施し、自学自習の習慣が定着し、生徒の学力向上に結びついた。

イ 進路指導

- ① キャリア教育の全体計画に基づき、進路部と学年が連携し、将来設計に基づいた計画的・組織的な進路指導を行った。新型コロナウイルス感染症による制限もなく、例年行っている進路行事や面談等を通常どおり実施することができた。これまでの進学実績の向上が良き伝統となり、早い段階から進路意識を高めるホームルーム活動での指導などにより、キャリア教育を充実させた。
- ② 教科主任会及び教科会の定期的な開催により、教科指導及び進学指導の実践力を高めるとともに、東京都教育委員会指定の「進学指導研究校」として、模試分析結果を基にした全教員参加の進路研修会を年間3回開催し、確実な学力の向上と目標大学合格に向けた進路指導の取組を、学校全体が一体となり組織的に行えるよう進めた。
- ③ 合格実績としては、国公立大学29人（昨年度38人）、早慶上理40人（昨年度44人）と昨年度を下回ったが、難関私立大学（GMARCH）は343人（昨年度226人）と昨年度比約1.5倍の高い合格者数であった。GMARCH以上の難関上位校への合格者数の卒業生徒数に対する割合を目標値として100%を目標としたが、118.4%（昨年度93.9%）と今年度初めて目標値を大きく超えた。文京高校での学びが難関上位校合格に結びつくという文京スタンダードは確実に定着してきた。

ウ 生活指導

- ① 「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において、規範意識を高め、自分で判断し決定し実行する自己指導能力を高める指導を行った。遅刻防止指導や身だしなみ指導を行うとともに、集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度の育成を進めた。
- ② 体罰根絶、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むなど、人権尊重の教育を推進した。

- ③ セーフティ教室を実施するなどして、未然防止や予防的指導の観点で、SNSの正しい利用、薬物乱用防止、問題行動防止、犯罪被害防止などの指導を充実させ、大きな事故や事件は発生しなかった。また、東京都教育委員会の方針を受け、自転車通学におけるヘルメット着用に向けた指導を進めた。

エ 特別活動・部活動

- ① 概ねコロナ禍前に戻った形態での学校行事を事故なく実施することができた。2年沖縄修学旅行も、万全な準備と生徒の自覚ある行動により、感染者もなく無事実施できた。生徒自治会や行事実行委員会等の活動を支援し、体育祭や文化祭、球技大会などを実施し、集団や社会の一員としての自覚と行動力、社会の発展に貢献しようとする自主的・実践的な態度を育成した。
- ② 本校が目指す「文武両道」の精神のもと、学習指導要領において学校教育の一環として位置付けられている部活動の教育的意義を理解させ、生徒の自主的・自発的な活動を支援し、質の高い活動を行った。
- ③ 数値目標として掲げた関東大会レベル以上出場部活動は陸上競技部の1部（昨年度2部）と、目標値を達成することができなかったが、各部活動が高い目標の実現に向け工夫して練習に取り組むことができた。

オ 健康・安全

- ① 新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザに対する感染症対策は、5類感染症への移行後も学校教育活動の継続を前提とした上で感染拡大防止に取り組み、大きな流行や感染拡大は無かった。
- ② 教育相談委員会を年間6回（昨年度6回）開催し、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、長期休業明けのアンケートを実施するなど、生徒一人一人に応じたきめ細かい指導を組織的に行うとともに、学校不適應の未然防止や自殺予防に向けた取組を定着させた。
- ③ 防災訓練を含む避難訓練を年間4回実施し、災害に対する自助の力と共助の精神を育むための防災教育を進めた。また、保健講話も予定どおり実施することができた。

カ 募集・広報活動

- ① 入学者選抜の応募倍率の更なる向上と不本意入学の防止を図るため、積極的に情報発信をし、学校見学会や学校説明会の1回あたりの人数を拡大し実施回数を増やすなど開催方法を工夫した結果、学校説明会の来場者延べ人数は6,278人（昨年度6,272人）と昨年度とほぼ同数であった。
- ② ホームページの更新を迅速かつ定期的に行ったが、年間258回（昨年度285回）と昨年度を下回り一昨年度とほぼ同数になった。
- ③ 入学者選抜の応募倍率は、中進対倍率が1.12倍（昨年度1.31倍）、推薦に基づく選抜では2.38倍（昨年度2.53倍）、学力検査に基づく選抜では1.34倍（昨年度1.44倍）と、いずれの倍率もここ数年で最も低い倍率となった。

キ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とした学校経営を行い、管理運営規程に基づく学校運営を徹底し、組織的な業務遂行と学校運営を進め、諸課題の解決に向け組織的に取り組んだ。
- ② 経営企画室との連絡・調整・連携を強化し、迅速かつ効率的な業務を遂行し、事業の充実と推進に取り組んだ。
- ③ 例年厳しい配付予算を計画的かつ円滑に執行し、スムーズで無駄のない学校経営を行ったが、老朽化した施設・設備の改修の実現には至らなかった。

(2) 重点目標への取組と自己評価

①【学習指導】

- ・土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置など、生徒の理解度や目的に応じた教育課程を編成し、進学校として進学に向けた学力向上を図る指導を充実させた。
- ・授業においては、授業時数を確保し、新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理解度や目的に応じた適切な内容・負荷・スピードによる指導を行うとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT機器や生徒一人1台端末の活用や、アクティブラーニングによる授業改善に取り組み、生徒の学びの質を高める指導を進めた。
- ・全学年全クラスで始業前の朝学習を毎日実施するとともに、放課後等の授業時間以外での講習や夏期・冬期講習などの受験指導も充実させた。自主学習室、図書館、放課後の教室などで学習する生徒が増加するなど、授業時間以外での主体的な学習の習慣が定着し、進学に向けた学力の向上を図る学習指導を充実させることができた。
- ・教科主任会及び教科会を定期的に開催し、授業、家庭学習、補習・講習などの内容や方法を調整し、学校全体で組織的に学力向上に向けた学習指導の推進を図った。
- ・感染症対応も踏まえたオンラインの積極的活用も定着し、学習内容の確実な定着と学力向上を目指す効果的な学習指導を計画的に進めた。

②【進路指導】

- ・3年間を見通したキャリア教育を推進し、組織的・計画的に将来設計に基づく進路指導を進め、伝統ある進学校として進学指導を一層充実させ、国公立大学や難関私立大学への現役合格者数の増加など、進学実績の向上を目指し取り組んだ。
- ・東京都教育委員会「進学指導研究校」の指定を受け、4年前から全教員参加で年間3回実施している進路研修会を活用するなど、模試分析等による生徒の学力診断結果を教科内及び教科間で検証し、進路目標実現に向けた指導の改善・充実に結び付けた。
- ・大学入学共通テスト得点率60%以上の人数は卒業生数の79.9%（昨年度66.2%）にあたる278人（昨年度217人）と昨年度を大きく上回った。その後の受験指導も充実させ、国公立大学29人（目標値40人）、早慶上理40人（同50人）と目標値には届かなかったが、難関私立大学（GMARCH）は343人（同270人）と目標値を大きく上回る過去最高の合格者数であった。文京高校での学びが難関上位校合格に結びつくという文京スタンダードの目標値であるGMARCH以上の難関上位校への合格者数の卒業生徒数に対する割合は、118.4%（昨年度93.9%）と今年度初めて目標値である100%を大きく上回った。

③【生活指導】

- ・「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高め、文京生であることへの自覚と誇りをもたせ、自律的な態度や行動を育成する指導を行った。
- ・数値目標として掲げた1日当たりのクラスの平均遅刻人数は、始業前の朝学習が定着していることもあり、0.3人（昨年度0.3人）と昨年度と同様に少ない数であった。
- ・例年行っていたセーフティ教室などの生活指導行事を、コロナ禍前の形態で行うことができ、生徒の行動や心理に対する想定範囲を広げ、事故や問題行動等の未然防止や予防的指導の観点で指導を充実させ、大きな事故や問題行動等はなかった。
- ・令和6年度から全ての都立学校において自転車通学におけるヘルメット着用を求めるという東京都教育委員会の方針を受け、着用に向けた指導を進めた。

④【特別活動・部活動】

- ・学習面だけでなく、特別活動や部活動も重要な学びの一つとして捉え、「至誠一貫」の校訓のもと、ひたすらに実践する生徒を育成するため取り組んだ。
- ・6月の体育祭、9月の文化祭、10月末の2学年沖繩修学旅行といった大きな学校行事も、感染拡大防止に努めながらコロナ禍前の形態で実施し、事前の十分な準備と指導の結果、事故なく実施し大きな成果を上げた。
- ・今年度の部活動加入率は92.2%（昨年度93.4%）と、2年続けて100%を下回ったが、「文武両道」の精神のもと、「部活動に係る活動方針」に基づき、運動部・文化部共に、事故やけがの防止に努め、効率的・効果的な部活動を実践し、学校生活の充実と、学校への帰属意識を高めた。
- ・数値目標として掲げた、関東大会レベル以上出場部活動は陸上競技部による1部と、目標値を達成することができなかったが、各部活動が高い目標の設定と実現に向けた質の高い部活動を進めた。

⑤【健康・安全】

- ・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染状況に応じて、利活用期間を設定し、都立学校版コンディションレポートを活用した心身の健康観察を実施することにより、感染拡大防止と生徒の健康状態の把握に取り組んだ。
- ・教育相談委員会を年間6回（昨年度6回）開催し、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、長期休業明けに「こころのアンケート」を実施するなど、学校不適応の未然防止や自殺予防に向けた組織的取組が定着した。
- ・防災、健康、安全、個人情報の保護など、学校の危機管理や安全管理について全教職員で取り組み、事故の無い安全・安心で健康な学校づくりを行うことができた。
- ・関係諸機関と連携した1年生対象の防災訓練を含む避難訓練を年間4回実施するとともに、災害に対する自助の力と共助の精神を育むため、体験的・実践的な防災教育を進めた。

⑥【募集・広報活動】

- ・不本意入学防止の観点からも、できる限り多くの方に本校の特色や教育の成果を知ってもらうことを基本とし、学校見学会や学校説明会の1回あたりの人数や実施回数の拡大、個別相談会の機会拡大、体験授業の新規実施、授業公開や学校行事の参観、部活動体験入部など、募集・広報活動を充実させた。
- ・学校で行った説明会の来場者延べ人数は6,278人（昨年度6,272人）と、昨年度とほぼ同数となり、広く本校の教育内容を伝えることができた。
- ・入学者選抜の応募倍率は、中進対倍率が1.12倍（昨年度1.31倍）、推薦に基づく選抜では2.38倍（昨年度2.53倍）、学力検査に基づく選抜では1.34倍（昨年度1.44倍）と、いずれの倍率もここ数年で最も低い倍率となった。
- ・情報発信の重要なツールとして、昨年度に続きホームページの更新を迅速かつ定期的に行ったが、年間258回（昨年度285回）と昨年度を下回り一昨年度とほぼ同数になった。

⑦【学校経営・組織体制】

- ・組織的な学校運営を進め、諸課題の解決を図った。学校の特色化を更に進めるよう、これまでの教育の内容や成果を検証し、更なる教育活動の充実・発展に向けた取組を進めることができた。
- ・学校評価アンケート等で毎年指摘を受け、東京都教育委員会に毎年要望していたトイレ改修について、令和7年度からの全面改修計画の決定を受けた。

(3) 「今年度の数値目標」の実績

[]内は令和5年度実績

- ① 長期休業中の講習講座延べ日数300日以上
320日 [280日]
- ② 自主学习室平均利用人数(1日当たり)60人以上
60.0人 [55.0人]
- ③ 大学入学共通テスト得点率60%以上の人数270人以上
278人 [217人]
- ④ 国公立大学合格者数40人以上
29人 [38人]
- ⑤ 難関私立大学(早慶上理、GMARCH)合格者数320人以上
40 [44] + 343 [226] = 383人 [270人]
- ⑥ 現役大学進学率90%以上
83.6% [91.8%]
- ⑦ クラス平均遅刻人数(1日当たり)0.3人以下
0.3人 [0.3人]
- ⑧ 1年生部活動加入率100%以上
92.2% [93.4%]
- ⑨ 関東大会レベル以上出場部活動5部以上
1部 [2部]
- ⑩ 図書館の年間貸し出し冊数3,000冊以上
2,430冊 [2,690冊]
- ⑪ ホームページ年間更新回数300回以上
258回 [285回]
- ⑫ 学校説明会の来場者延べ人数6,500人以上
6,278人 [6,272人]
- ⑬ 入学者選抜応募倍率(学力検査)2.0倍以上
1.34倍 [1.44倍]

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理解度や目的に応じた適切な内容・負荷・スピードによる学習指導を行い、進学に向けた学力の向上を図る指導を一層充実させる。教科主任会及び教科会を定期的に開催し、ICT機器や生徒一人1台端末の活用を含め、教科内での指導内容や指導方法の共有化を図るとともに、教科間の連携を深め組織的な指導体制を構築し、意図的・計画的に学習指導を進めていく。自主学习室の利用拡大や進学対策講習の充実を図るなど、授業時間以外での生徒の主体的な学習を推進する。

(2) 進路指導

進学校としての進学指導を一層充実させ、国公立大学や難関私立大学への現役合格者数の更なる増加など、進学実績の向上を目指す。国公立及び難関私大の合格者数の卒業生に対する割合が目標値である100%を大きく上回り、教員・生徒ともに目標値になっている。文京高校での学びが難関上位校合格に結びつくという、文京スタンダードを一層定着させる。年

間3回の進路研修会を年間計画の中に位置付け、模試分析等による生徒の学力診断結果を教科内及び教科間で検証し、進路目標実現に向けた指導の改善・充実に結び付けていく。放課後や長期休業中等の授業時間以外での講習等の指導を更に充実させ、進学に向けた指導を充実させる。

(3) 生活指導

引き続き「規律ある自由」の精神のもと、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高める。文京生であることへの自覚と誇りをもたせ、自律的な態度を育成していく。近年、高校生や社会において発生している事故や事件等の情報を的確にとらえ、生徒の行動や心理に対する想定範囲を広げ、事故や問題行動等の未然防止の視点で、予防的指導を更に進めていく。

(4) 特別活動・部活動

「至誠一貫」の校訓のもと、学習面だけでなく、特別活動や部活動もひたすらに実践する生徒を育成する。勉強と部活動を両立させるためにも、部活動に関する活動方針を遵守し、効率的・効果的な部活動を実践する。生徒が主体的に取り組み、事故無く、成就感や自己肯定感を得られるような指導を進めていく。ひたすらに実践した結果が大会等の成績に結びつくよう、高い目標を維持させる。

(5) 健康・安全

感染症の流行に留意しながら、生徒の命や健康を守り安全・安心を最優先とする教育活動を引き続き進める。学校不適応や中途退学の未然防止及び自殺予防に対する指導や対策を進め、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制や、定期的に開催する教育相談委員会を機能させ、生徒個々の状況把握と一人一人に応じたきめ細かい指導を組織的に進めていく。防災教育や安全指導を徹底し、災害に対する指導や事故の未然防止を図る。

(6) 募集・広報活動

引き続き、できる限り多くの方に本校の特色や教育の成果を知ってもらうことを基本とし、前例にとらわれず広報活動や募集対策を一層充実させる。授業見学、体験授業、出前授業などの形態を工夫し、質の高い教科指導の実態やひたすらに実践する文京生の姿に触れることができる機会を設ける。説明会等で常に伝えている「入りたい学校、入って自分を伸ばせる学校、入って自分の将来の夢をかなえられる学校」として本校を選ぶことができるよう積極的に情報発信をし、入学者選抜の応募倍率の更なる向上と不本意入学の防止を図る。引き続き、ホームページの更新を迅速かつ定期的に行い、本校の教育活動の内容や成果を積極的に外部に発信する。

(7) 学校経営・組織体制

東京都教育委員会からの指定や支援を受け、教育活動の充実・発展に全教職員が主体的に取り組むとともに、法令・規則等に基づく組織的な学校運営を更に進め、引き続き諸課題の解決を図っていく。